

会 議 録

1 会議名	平成19年度 第3回河内自治会議
2 開催日時	平成19年6月19日（火） 午後1時30分～午後3時45分
3 開催場所	河内地域自治センター 第1会議室
4 出席者	【委員】 中村祐司（会長）、須藤貢（副会長）、青木正子、上山茂、大田原加久司、菊地久美子、小嶋由美子、須藤誠一、五月女勝正、五月女純、對馬博幸、永見幹夫、西岡隆義、日向トモエ、前野巖、松谷悦広、森本喜美子、山下景二 【事務局】 河内地域自治センター所長、地域経営課長、地域経営課主幹、ほか7名
5 公開・非公開	公 開
6 傍聴者数	【傍聴者】 1名 【報 道】 1社
7 会議経過	(1) 開 会 (2) 協議事項 ・ 合併市町村基本計画の執行状況について (3) その他 (4) 閉 会

1 開 会

事務局	ただいまより、第3回河内自治会議を開会させていただきます。 本日は、2人が欠席、18人が出席となっており、委員数の過半数に達していることから、会議が成立することを報告します。 はじめに会長からごあいさつをいただき、その後の進行を会長にお願いします。
会長	みなさん、こんにちは。先日は地区内の視察に行きましたが、非常に多くの委員が参加されて、皆さんの熱気を感じ、その気持ちに押されながら見て回ったような気がします。小中学校を始め、いろいろな場所を見ましたが、現場を見たということが、私自身にとって今回の会議の原動力になったと思います。 ある委員から、今まで分かっているようでも、実際に行ってみて発見があったという声もあった。貴重な視察を踏まえてアイデアをいただき、次回までにたたき台と方向性について見えればよいと思うので、皆さんの意見を頂戴したい。

2 協議事項

合併市町村基本計画の執行状況について

会長	まずは、前回の会議でどのような意見を出していただいたのかを思い返してみたいと思います。前回の主な意見について事務局から報告してください。
事務局	(資料1を説明)
会長	前回のことについて振り返っていただけたと思います。 それでは、前回に続いて諮問のありました、合併市町村基本計画の執行状況について議論を続けていきたいと思います。 皆さんに意見を言っていただくにあたって、便宜上、大きく3つに分けて議論していきたいと思います。合併市町村基本計画の中のまちづくりの目標に3つの領域がある。具体的ところでも、道路の改良や下水道の整備事業が一つ目、学校の問題や総合運動公園の整備が二つ目となり、区画整理事業や農道の整備が3つ目となっている。この領域ごとに順次話し合いをしていきたいので、この中に合うところで自由な意見をお願いしたい。 はじめに「一体的で均衡がとれた誰もが住みよい都市の創造」の領域として、道路新設改良事業や公共下水道整備事業の部分に関係するご意見をお願いします。

委員	この地区でも平地林が少なくなってきたが、環境条例を作って開発を抑制するようなことを考えてほしい。河内は自然が豊かな地域であるが、住宅団地の開発によって自然が失われてきているので、地域の良さを残すために規制が必要だと思う。 それから道路については、サイクリングロードを整備して、グリーンパークを中心にして、貸し自転車などで環境保全地などの地域のよいところを見て回り、一日ゆっくりできるとよいと思う。地域を生かすために、これらを一体的に結びつけるような道路網があると良い。
会長	一つ目は、環境の保全を進めてほしいということと、二つ目は、サイクリングロードのネットワークのようなことを自転車の貸し出しも含めてやってほしいということであった。
委員	道路のネットワークについては、当該地域の整備について、どう考えていくかということ。河内地域の道路については、東西に結ぶ整備が必要だと思う。グリーントウンから岡本駅のほうへの道路など、具体的な道路ネットワークの構想が必要となる。 公共交通機関の利用についての議論があるが、新交通システムについても、今は、東西を結ぶ線でしか考えられていないが、南北を結ぶことも考えて、網として考えてはどうか。公共交通機関について、どうあるべきかの構想が総合計画に反映されるべき。 それと、ＪＲと東武の相互乗り入れが可能な方法があるのではないかと。すぐに実現できるものではないが、エネルギー問題とか地球環境問題とかも関係するので、公共交通機関の利用のあり方についての構想が考えられればよいと思う。
会長	今の意見は大きく二つあって、具体的なこととして、東西をつなぐ道路のネットワークが必要だということと、非常に大きな話となるが、新交通システムについて将来的に考えていくということであった。 かなり大きな考えも述べていただいて、非常に重要なことであるのだが、今回の諮問は、基本計画の執行状況についてのことなので、今回の答申の内容は、あくまでも基本計画に基づいて、具体的な意見を述べることとなるので、ご理解いただきたい。 より具体的にすることでは、先ほど話のあった、道路ネットワークで東西を結ぶということや自転車を使って地域を生かすということなどが今回の議論のメインとなる。 答申や提案は、今回限りでなく、これからも続けられるものとなるので、今回できなかった議論は、また続けていくこともできるので、ご理解いただきたい。

委員	地域づくりというのは、どういう意味があつて、どういう内容なのかを聞きたいと思っている。第1回目のときにも聞きたいと思っていた。 私の団体は、小さなボランティア団体が集まった団体だが、合併した途端に補助金が無くなってしまった。補助金はないけど地域づくりをがんばってくださいと言われていたようだ。 補助金がないと今まで取組んできた地域づくりができないのではないかと不安である。これからどういうふうに地域を作っていくかを聞きたい。
委員	私も聞きたいと思っていたが、次の話題となると思う。
会長	まちづくりについては、2番目の領域となると思うので、もう少し待ってほしい。その他1番目への意見はありませんか。
委員	住みよい都市の創造ということでの議論だが、その住民が住みやすくなつてほしいと思う。高齢化社会となっているが、道路の整備に加えて歩道の整備が必要と思う。どこかに行くときには路上を歩くしかない現状があるので、家から安心して歩いて行けるような道路網が必要だと思う。
委員	快適に移動できるということについてだが、今までの道路は、経済性を求めて作られてきた。どうして河内が今まで人口が増えてきたかということを見ると、宇都宮に近く、通勤に便利だということだと思う。河内地区を見ると、新たに移り住んできた住宅地と昔からの農村地の大きく二つに分かれるが、今までこれらをうまく共存させてまちを一つとしてきた。 住宅地の人たちは宇都宮に通うので、宇都宮への通勤道路を整備すれば、河内地区がもっと発展するのではないかと思う。私の家の前も田んぼの中だが渋滞している。住んでいる方が勤めにいくのに苦労しているので、勤める環境を良くするべき。通勤道路の確保が最も必要なのではないかと感じている。 それから、農村地区と住宅地区の交流がもっとあつてもよいと思う。地産地消の時代とも言われているが、以前は朝市などがあつたので、そのようなイベントも続けてほしい。
委員	生活していくうえでは、上下水道が一番大事だと思う。河内地区では下水道の普及が遅れていて、私の方では、まだ下水道が整備されていないので、生活排水を浸透枡に流している。生活面では、上下水道を早く整備してほしいと思う。

委員	通勤及び通学についてだが、河内では、中学生が卒業して高校へ進学すると大部分が宇都宮へ通っている。特に朝見ていると、自転車通学が多い。通勤も同じだが、河内地区から宇都宮方面への通勤と自転車による通学の道路の整備が急務だと思う。 今のところ大きな事故は、ここ数年ないようだが、河内地区は住みやすいので、通勤も増えてきているし、通学も増えてきた。子供たちの通学が守られているかという、私はそうではないと思う。自転車が通れる道路の整備や自転車と車との通行分けについて見直し、自転車通学路の確保が必要だと思う。
委員	河内地区は南北の道路はあるが、東西の道路が細い。私の家の近くも道が細くて、すごく渋滞している。車も自転車も東西の道路が必要だと思う。
委員	地域の発展は道路だと思う。中心部から出る幹線道路は、今のままでよいのか疑問を感じている。きちんと広げるなどしないといけない。 また、この地区には岡本駅があり、駅の周りから開発が進んでいるが、駅を中心とした道路が無いことが問題だと思う。ただ通れるだけの細い道では仕方がないので、きちんと計画していけばもっと良くなる。せっかくまちづくりをしても道ができていないといけない。できるうちにやっておかないと、後からではできないので、計画を早めに進めていければよいと思う。
委員	岡本駅前には自転車置き場があるが、放置自転車がすごい。また、高校生が次々と置いていくが、きちんと整理して置いていかない。 放置自転車が山積みになっていて、いたずらも多いので、早く撤去してほしい。また、きちんと並べられるような方策がないだろうか。他の地域では、雀宮などではどのようなことをやっているか分からないが、今まで以上の努力をしてほしいと感じている。
会長	いろいろなことを出していただいたが、確かに道路ネットワークについても一挙に宇都宮市全部を変えていくことは難しいと思うが、河内モデルというものを答申に盛り込んで、こちらの地区からまず変えていこうということが重要となる。 それでは、二つ目の「個性と特性を生かした地域の創造」に移りたい。先ほどまちづくりについての意見がありましたが、まちづくりについて共通認識を持とうということか。

委員	地域づくりやまちづくりをしましょうということを掲げているが、一方では補助金の削減など、さびしい状況が見られる。これを削られれば、いくらがんばっても何を基にして計画すればよいか分からないので、心配だ。
会長	まちづくりとは何ぞやというより、具体的には、従来もらえていた補助金が合併によって無くなってしまったということだが、他の委員からも同じような問題提起があった。
委員	連合自治会としても地域づくりをしなければいけないが、合併後に一気に補助金が無くなるというのでは、動きが取れなくなる。自治会議の皆さんに同意をいただければ、このことを自治会議の要望事項として市長に上げていってほしいと会長にお願いしている。 町のときのイベントも今年度は予算に上がっているが、20年度以降は、ゼロになるか、半分になるか不透明だという。激変緩和ということで、2年か3年は何らかの予算措置をしていただきたいという要望をしたい。 また、連合自治会が市の集金団体になってしまうという心配もある。後で時間をとって議論してもらいたい。
委員	私の関係団体も補助金が無くなってしまったところもあるし、もらえているところもあるようだ。その全体がどうなっているか知りたい。 町のときに出していたということは、その必要性があったということ。特に文化協会は、町の文化振興策として進められてきたが、合併によって、文化振興は市の仕事となって、全然関わらせてもらえなくなり、文化協会は自由活動となってしまった。 文化振興というものは、地域にも従来どおり必要だと思う。それが河内地区には文化振興は必要ないと言われているようなので、きちんと対応してほしい。
会長	基本計画でいう地域自治拠点の整備に関係することになるか。
委員	基本計画に出ていることは、建物などのハード面ばかりであって、人的交流などのソフト面がない。まちづくりには建物だけではできない。
会長	まちづくり事業にもいろいろとあるが、従来補助金が出ていたものが合併に伴ってどのようになる、という考えがあったか教えてほしい。事務局で答えられるか。

事務局	補助金については、町のときにも財政健全化計画で補助金の整理統合などの見直しを進めてきていた。それに合わせて合併があつて、町の財政健全化計画が基となって決められたので、19年度予算の計上にあたっても町の考えをベースに宇都宮市の予算に組み込んできた。合併によって補助金が無くなったと言われるが、たまたま合併に重なっただけであつて、そういうものではない。 また、宇都宮市では補助金には一定の基準があつて、基本的に10年間継続して補助したものは見直しをすることになっている。対象についても、交付の仕方についても基準がある。負担金や交付金も規定に基づき交付している。 これらは、合併の協議の中で市の担当課と協議しながら決めてきたが、補助金の方向性は、大きく二つに分けられる。一つは原則的に宇都宮市の基準に合わせるもの、二つ目は宇都宮市の基準を基に合併までに方向性づけして新市移行後に速やかに合わせるものと、新市移行後に当分は従来どおりとして段階的に調整するものがあつた。中には完全に廃止するものもあつた。 19年度予算に補助がついていないものについては、合併と同時に補助することなく運営していただくということを前提に位置づけされているので、ご理解いただきたい。
委員	無くなってしまったことは仕方がないが、町のときにそのような説明がなかったから、合併で補助金が無くなってしまったと認識していた。 ここでは、ハード面だけでなく、人的な交流などのソフト面の強化をお願いしたいと思う。
会長	今のことについては、身近な活動団体のことでもあつて、非常に関心が高いのは分かるが、今回の答申で具体的な要望を出すのは難しいのではないだろうか。このことについては、もう少し時間をかけて、我々の中でももう少し勉強してから、答申とは別に次の議論としていくほうが良いと思うがいかがでしょうか。 ただ、決して終わりにするということではなく、次回検討していくことにしたいと思います。 それでは、ここで一旦休憩を取りたいと思います。
	(10分間休憩)

会長	それでは、再開したいと思います。 先ほどの補助金に関する話については、今後じっくりと議論していきたいと思う。私は先ほど答申に盛り込むかどうかという狭いことを話したが、自治会議の役割は、答申だけでなく、地域のまちづくりに関する施策について提案することも役割にあるので、この問題については、今までの経緯を聞き、市や皆さんから資料を出していただいて、この会議の重要な議題として取り上げていきたい。あくまでも今回出す答申の中に盛り込むのは無理ではないかということになります。 それでは、議論を続けていきたいと思います。 いろいろあると思うが、私は個人的には、小中学校のプールや体育館、校舎の老朽化の問題についても意見をいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。
委員	田原小学校の現状を見たが、一番感じたのはトイレのこと。用を済ませたら流れるまではそのままの状態となっているが、蛇口をつければ流せると思う。皆さん感じたと思うが、生徒さんや先生も辛い思いをしていると思うので、これだけは絶対に盛り込んでいただきたいと思う。 それから、屋根のない渡り廊下もあったが、雨のときには通れないので、給食を階段で運んでいて危険ということなので、早急に対応していただけると良いと思う。
委員	このことについては、私も同感で、以前から何とかしてほしいと思っていた。小学校の工事は、耐震工事であったと思うが、どのような工事をするのか。
事務局	正確なことは分からない。
委員	田原小学校の耐震化工事は、耐震だけでなく大規模な改修工事もあると聞いているが、今年度設計して、来年度工事になると思う。先日見たトイレは、北側校舎だが、今回耐震工事が該当しているのは南側校舎と聞いている。ただ、その中で、北側校舎についても要望を出しているだろうから、大規模改修として設計に入るのではないかな。 ただ、渡り廊下については、屋根をかけると建築面積に関係してくるので、開放型となるしかないだろうし、その場合は雨の時に問題が残る。建築基準法上でも問題があると思うので、今後協議されるのではないかなと思う。

委員	今の話では南校舎の耐震化だけとのことだが、工事の中にトイレに関する要望を入れてほしい。 また、以前から感じていたが、開放型の昇降口であるが、安全性の観点から、今はどこも閉められるようになっているので、工事に合わせて昇降口を閉められるようにしてほしいと思う。 それから、プールの危険性についてもいくつもあると聞いているが、危険なところについては早急に修理をしてほしいと思う。 これらの学校に関する事業が具体的にになっているのかどうかも分からないので、事業を具体的に示してほしいと思う。
会長	視察したのも小中1校ずつだけなので、細かく見たわけではない。今後の整備の予定や見込みについて事務局で分かるか。それが分かればそれを後押しするような文言を入れるようにできるのだが。
事務局	小中学校の耐震化については、一定の年以前に建てられた校舎について全市的な優先順位をつけていくことから、河内の学校がどこに入れられるかどうかは今のところ決まっていない。相当費用がかかることであるので、一気に工事はできないので、耐震診断をした後に位置づけられるが、市の教育委員会の中で優先順位を決めていくので、どこを何年にやるかについては、まだ分からない。
会長	たとえばトイレについては、手動で水を流すようなものにするような応急的なことを盛り込んでいくことはできないだろうか。子供たちがあれだけ古いものを一生懸命に磨いているのを見るとやりきれない思いがあるので、なんとか応急的に対応できないだろうかと思う。 ただ、全体的な見方をすると、どうしてあそこだけなのかと言われてしまうので、見た範囲を例として挙げていけば今後につながると思う。
委員	田原小学校からは何度も要望が出ていたようだが、大規模改修を控えているのに一部分だけ直すのは難しいということで、最低限の安全性を確保して改修時期まで持たせるということを町では言っていた。町には要望が伝わっていたはずだが、今回は市になったので、念のため今回の答申で具体的なことを載せて、確認したほうが良いのではないかな。 子供たちが掃除している姿にはショックも受けたが、子供たちにとって精神性を鍛えるため、また、皆で協力して作業するという点では、意味があるという見方もある。ただ、できれば水洗化によってより良い環境を与えていきたいと思う。 同じ時期に建てられた他の学校でも同じような悩みを持っているのではないかな。トイレについては、さほど費用がかかるものではないと思

	うので、早急に手をつけて、学校全体のトイレを明るく快適なものとするべきだと思う。このことについては、具体的な例を挙げながら答申に取り上げていくべきだと思う。
会長	他には総合運動公園や公民館の整備なども挙げられているが、そのあたりはどうだろうか。
委員	小学校などが優先されると思うが、地域自治拠点の整備が挙げられていて、具体的には自治センターの建て替えのことと思うが、建物が古く、環境面、省エネ面についても好ましくない状況であるので、早急に事業を進めていただきたいと思う。 それから運動公園は、これから多目的広場の整備があるが、これは5年計画であって23年に完成と聞いているが、河内地区のスポーツの推進という観点では、5年ではなく、もう少し早めて、2年から3年で進めていくということも要望してほしい。
委員	河内町はスポーツのまちとしての歴史があり、今年度は体育祭の予算がついているが、これを市としての同一の基準とされたら、地域の特性を生かすということの意味がなくなってしまう。せっかくのスポーツ施設があるのだから、これを生かした活動をしていかなければいけない。ただ、事業をやるには予算が必要なので、これを削減することは問題がある。これを要望としてきちんと位置づけないといけない。 文化についてもスポーツと両輪となるもので、河内は研修が盛んな地域であるので、活動の場についてもきちんと今年度の要望の中に入れて、河内の特性を生かすことを入れておきたいと思う。 生涯スポーツの推進が挙げられているが、これは健康づくりにつながるので、体力検査や健康診断も自治会単位でできるようなことも進められれば、高齢者の健康づくりを進められるような、そういう方向性を示せると良い。 もうひとつは、生涯学習の推進にも含まれるが、今後は人づくりがキーワードになると思う。
会長	基本計画に明記されているが、スポーツのまちづくりを前面に出して、運動公園の整備については進捗を早めてほしいとか、スポーツと同時に文化の振興も進めていくとかを取り上げていくことができると思う。
委員	陸上競技場で説明を受けたときに、大きな事業は体育祭だけだと聞いた。あれだけ良い施設が有効に使われていないのはおかしいと思うの

	で、大きなスポーツイベントなどで有効に使われるよう、宇都宮市内にPRすることが必要だと思う。
委員	運動公園で説明では使用頻度が少ないという。5時以降は使用させていないというのだが、問題があると思う。社会人は5時からが活動の時間となるので、お金がかかることだが、照明施設を整備していくべきだと思う。 それから、中体連や高体連の大会やサッカー大会を誘致することに加えて、宇都宮駅や岡本駅からのバスを出すなどの環境整備も必要だと思う。スポーツのまち河内ということが宇都宮全域に知られれば、使用頻度が増え、周辺の活気が出てくるのではないかな。 また、栃木SCというサッカーチームの練習場に鹿沼が名乗りを上げているそうだが、そこまで行かなくても河内で練習ができるということも可能だと思う。そういうPRをすることで河内だけでなく宇都宮全体のPRとなると思うので、答申にも誘致活動を取り上げていただきたい。
会長	今の意見は、使われていないものはいらないということではなく、あるものを資源と考えて、時間延長やアクセスのこと、SCのことも含めて積極的に活用、充実させていくという前向きな発言であった。
委員	今まで話し合われてきたのは、お金のかかる事業ばかりであった。 視察の際にプールについては、運営費が1億数千万円かかっていると聞いたが、それを見直す必要性があると感じた。どうすれば無駄が省けるか分からないが、財政の負担を軽くするということも含めて、今まで出たいろいろな要望を盛り込んでいくべきではないだろうか。 また、先ほども言ったが、自治センターも省エネ対策をしていけば、効率のよい経費となるだろうし、そのような経費削減も含めて要望していけばよいのではないだろうか。
委員	コストの問題にも触れてほしいということであった。
委員	プールは、水泳連盟の公認プールであって記録会ができるものであるので、そちらも有効に活用していくということも加えてほしい。
会長	それでは、3つ目の領域である「人・モノ・情報が活発に交流する活力の創造」の部分に移りたいと思います。ここは区画整理事業とか農村公園とかも見てきましたが、自由な意見を言ってください。

委員	岡本駅の周辺整備事業は、東西を跨ぐ橋上駅はＪＲでは難しいと言っているそうだが、ぜひとも進めてほしい。
事務局	補足説明となるが、岡本駅西区画整理事業と併せて岡本駅前周辺整備事業が主要事業に挙げられているが、駅のことは、駅前周辺整備事業に係る事業となる。ただ、今後これがどのように位置づけされるか分からないが、当然協議の際には橋上駅ということも含めて検討することになる。
委員	区画整理事業については、町の総合計画審議会の中で、駅西地区の幹線道路の整備を先にする必要があるという意見があった。駅前の整備と基本となる道路を整備したほうが地域の発展に役立つと思う。 また、河内地区には高等学校がない。高校を作るのは無理だろうが、専門学校を駅の近くに誘致してはどうか。若い人が集まれば活性化し、発展してくる。文化祭などでも若者の出番がないので、若者が増えて、参加してくれれば、若さがあふれる地域になるのではないかなと思う。
会長	最初の意見については何か事情があるのではないかなと思うが、事務局で何か分かるか。
事務局	正確に答えられないが、排水計画と連動して区画整理も実施されていると思われる。見ていただいたところに土盛りがされているところがあったと思うが、あの場所は一定の高さではないので、排水の処理も考えながら進められていると聞いている。
会長	専門学校の誘致も大切だが、相手のあることだから難しいことなのではないかなと思う。
委員	高校のことについては、前町長や前議長も含めて工業高校の誘致活動を積極的に行ったが、雀宮に決まってしまった。専門学校のことも相手があることだとは承知しているが、私はできればよいと希望を持っている。
会長	今回の答申どうこうということではなく、大きな視野の中で考えていくべきものという捉え方をしたい。

委員	区画整理事業だが、計画では6年から30年度までの期間ということで、およそ半分の年月が過ぎたが、できているのは1割だという。設計図を見る限り、きちんと道が計画されていて、これはいろいろと検討されて決められたのだと思うが、見たところ空き地もあったし、建てたばかりのものを動かさなければならぬところもあるように思えた。あと10年の間に本当に区画がきちんとできるか分からないが、ただ、再検討の余地がある場所もあるのではないかと感じた。宅地のあるところを無理に通そうとすると工期がかかるので、空いているところがあれば、そこに道路を整備して工期を短縮していけるのではないだろうか。ちょっと見ただけなのだが、そこが疑問に思った。計画の改正というものは可能なのだろうか。
会長	具体的にここというところはあるか。
委員	駅前広場を作ろうとしていたが、今建っていて空いていないところに道を通していこうとしているが、これからやろうとしているところのちょっと先が空いていた。そこをうまく利用して、うまく整理できないだろうか。専門家が考えたことなのだろうが、ちょっと工期がかかりすぎるので、再考が可能かどうかを考えてほしい。
会長	こういう整備事業は、河内地区に限らず、なかなか進まないものではあるが、できるだけ早く確実に進めてほしいということだと思う。
委員	駅は、まちの顔だと思うので、駅周辺がきれいでないと他の人たちから岡本のまちがきれいだといわれぬ。先日見たが、住宅の関係でなかなか進まないのだろうが、駅西が全然整備されていない。空き地には雑草がはびこっているが、それはすぐにきれいにできるだろう。線路ぎわを早く整備してほしい。 また、駐輪場もどこにあるか分からない状態なので、防犯上の意味も含めて、きちんと整備してほしい。 そのようなことから、駅前広場の整備については優先順位を上げて整備してほしいと思う。
委員	魅力ある農林業の振興だが、前から思っていたが、農産物の直売所を設けてほしいと思っている。以前は朝市が開かれていて、とてもにぎわっていたが、最近場所も変わって寂れてきてしまった。ただの直売所ではなくて、都市部の人たちと農村部の人たちの交流の場となると良いと思う。他市では、直売所内に楽器演奏会ができるような場があるので、買い物ついでに休んでいける。

	近所の人は、わざわざ高根沢まで買い物に行っているという。河内にもそのような場があって、付加価値のある野菜を売っていれば、人が集まってくる。農家にとっても直売であれば自分で値段をつけられるので、卸値より高くつけても市価よりは安くなると思う。
会長	具体的には農村公園整備事業のこととなるか。
委員	そうできると良いと思う。
委員	そのような場があれば、生産者の意識も変わってくるだろう。作ることが自己満足でなく、他者から評価されることになるので、産業の振興にとっても意義があると思う。 また、農協青年部では小学校ごとに田植えなどの体験をしてもらっている。ただ田植えだけでなく、稲刈りや、昔の脱穀機なども使ってみて、できたお米をおにぎりやお餅にしてみんなで食べている。最近では、親子で酒米の収穫を体験してもらい、地元の酒屋さんに協力してもらって、お酒を造ったりもしている。そのように地元の人たちが協力した活動があれば、交流も進むし、周囲からの注目も浴びるようになってくるだろう。 また、パソコンを使ったネットワークも必要だと思う。宇都宮にはアグリネットワークというものがあるが、農家だけでなく、大学の先生や市場の方など、農業に関係する多くの人たちが参加するようなネットワークが考えられている。地域では面白いことがいっぱいあるので、そういうものが使えると良いと思う。
会長	今日もここに来る途中に河内地区のアクセスの良さを感じたが、宇都宮大学にも農学部があって、河内地区と今まで以上に連携ができれば、いろいろな可能性があるのではないかと感じた。 それでは、次に、基本計画の全体的なことについてのご意見があればお聞かせください。
委員	私は消防団をやっているが、20歳から40歳くらいの団員270人と一緒に活動しているが、彼らは非常によく活動してくれている。私も消防団活動をしていなければ、地域のことをいろいろと分からなかったと思う。地域に結びついて地域の安心安全を守っているのだが、これが地域を愛するという非常に良い青年の教育にもなっている。 昔は青年団などがあったが、今は地域に結びついた団体が少なくなってしまった。このような地域を愛する、自分たちの地域は自分たちで守

	り,自分たちで作上げるんだという若者を育てていかなければならないと思う。これからの地域づくりはひとづくりを中心にしていかなければならないと思う。
会長	ご意見をありがとうございました。 それでは、これからの進め方になりますが、7月末までにいただいたご意見を基に答申書としてまとめていかなければならない。いただいた意見を全部取り入れることはできないかとも思うし、表現も整えさせていただくようになるのだが、答申書の形については事務局で持っているイメージはありますか。
事務局	前回の会議で、答申書に関するご意見として、大きな方向付けの部分と具体的なことと二つを盛り込んだほうが良いという意見があったと思うが、それを受けて、答申は、総論と各論の二つに分けてはどうかと考えています。 総論では、地域の特色や地域の課題とともに全体的な方向性に関する意見を述べ、各論では、先程ご意見いただいた3つの柱を基に、それぞれの個別の主要事業に触れながら、柱ごとに意見を集約させてはどうかと考えています。
会長	総論と各論に分けるということで、各論では今日の3つの柱ごとに皆さんの意見を精査して、できるだけ盛り込むということだが、枠組みについてはいかがでしょうか。 (委員から異議なし) ありがとうございました。 また、答申書の作り方についてですが、理想的にはワーキングのようなもので作りあげるという方法もありますが、残された時間を考えると、今まで出していただいたご意見を私がお預かりして、答申書の案として次回に提示させていただき、再度皆さんにご意見をいただいてから固めていくことを考えていますが、いかがでしょうか。 (委員から異議なし) ありがとうございます。それでは次回までに精一杯作成させていただきます。

4 その他

会長	その他について，委員の皆さんから何かありますか。 (委員から意見なし) それでは，事務局から何かありますか。
事務局	次回の会議を7月6日の午後1時30分から開催させていただきたいので，ご予定をお願いいたします。
会長	皆さんも忙しいとは思いますが，よろしくお願いします。 この自治会議は，歴史上壮大な実験ともいえることをしていると思います。今までの歴史の中には無い，初めての試みとして重みを感じている。ここでは，みなさまにはそれにふさわしい，視察を含め，積極的かつ具体的なお意見を出していただいているので，皆さんの協力に感謝したいと思っています。 それでは，本日の会議を終了します。